



京大広報

No. 568

2002. 5

目次

再び全学に訴える

- 総合人間学部における

差別落書きについて -1262

大学の動き

名誉博士称号贈呈式.....1262

部局長の交替等.....1263

部局の動き

大学院地球環境学舎・学舎の設置.....1264

地球環境学舎入学式.....1265

化学研究所に寄附研究部門を設置.....1265

随想

「行方不明」の楽しみ

名誉教授 川那部浩哉.....1266

洛書

気になる予期せぬ樹・木管理

島田幹夫.....1267

資料

平成14年度入学試験諸統計.....1268

平成13年度教育実習実施状況について.....1272

訃報1273

日誌1274

お知らせ

文学研究科フォーラム

「京都から世界へ - 知の次なる一歩」.....1274

平成14年度創立記念行事音楽会の開催.....1275

編集後記1276



名誉農学博士の称号を受けたラーマチャンドラン ナイヤー氏
- 関連記事 本文 1263 ページ -

京都大学広報委員会

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

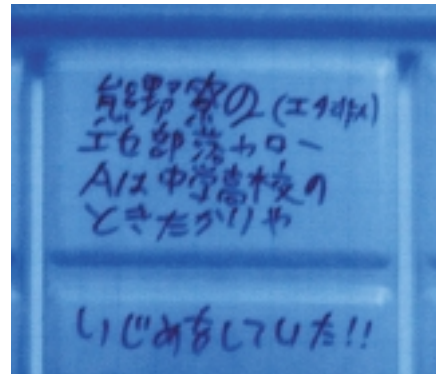
再び全学に訴える - 総合人間学部における差別落書きについて -

京都大学同和・人権問題委員会

3月30日(土)と4月1日(月)に総合人間学部 A 号館の1階と2階男子トイレ個室内で、さらに4月10日(水)には同学部 A 号館1階と E 号館横仮設トイレにおいて、同じ人物の手になると思われる差別落書きが発見された。その内容は主に、特定の個人を名指して被差別部落出身者や同性愛者とし、差別、中傷するものである。その内容と書体から見て、「京大広報」No.567号で全学に訴えた差別落書きの書き手と同一人物であると思われる。大学としては「警告」や「告示」、「京大広報」を通じて差別落書きの非人間性、犯罪性を訴え、書き手に猛省を促したにもかかわらず、それに対し、悪辣な差別落書きをもって応えたのには憤りを抑えることができない。ここに差別落書きの一部を公開する。

京都大学としては、この差別落書きの書き手の特定を初め、さまざまな差別解消のため一層の努力を重ねる所存であるが、教職員や学生諸君にあっても、自らの人権意識の向上に努められるとともに、あらゆる差別行為に対して毅然たる態度で臨まれることを改めて要望するものである。

なお、総合人間学部長及び人間・環境研究科長名による4月1日付け「警告」- 資料1 - 及び4月11日付け「警告」- 資料2 - と4月12日付け「告示第3号」- 資料3 - を挙げておく。



落書文書(部分・拡大)

警 告

3月30日および4月1日に、A号館2階北東および、1階北西男子トイレの個室内で、差別落書きが発見された。被差別部落出身者を示す差別語、また「ホモ」という語を罵倒語として用い、複数の個人をいわば手当たり次第に中傷するものである。2月にも同様の落書きが発見されたが、内容および書体から、今回の落書きも同一人物によると思われる。その際にも書き手には猛省を促したが、それにもかかわらずこのような悪質な行為が再度なされたことに、怒りを禁じ得ない。本人には再度反省を求めると共に、二度とこのような行為を繰り返さないよう強く警告する。

2002年4月1日

総合人間学部長 宮本 盛太郎
人間・環境学研究科長 江島 義道

資料1

警 告

4月10日、E号館横仮設男子トイレ2室の内部および、A号館北楼一階西男子トイレにて、特定の個人を誹謗中傷する差別落書きが発見された。

今年に入って総合人間学部構内では差別落書き事件が相次いで起きているが、今回も内容および字体からして、同一人物の仕業と考えられる。これまでの落書きすべてに共通して名指されている個人にダメージを与えようとする意図が明白であり、許し難い。人目につかない場所ですこそと差別落書きをする者は恥を知るべきである。

お 願 い

学生及び教職員の皆様には、差別落書きに気がついた場合、すぐに庶務掛(内線6512、753-6512)まで連絡をお願いします。また、トイレに入ったついでにチェックするなど、差別落書きの早期発見および予防にご協力下さい。

2002年4月11日

総合人間学部長 宮本 盛太郎
人間・環境学研究科長 江島 義道

資料2

告示第3号

平成十四年三月二十日(土)、総合人間学部 A 号館一階北東男子トイレ個室において、また、四月一日(月)には同学部 A 号館一階北西男子トイレ個室内において、さらに、四月十日(水)に同学部 A 号館一階北西男子トイレ個室内及び E 号館横仮設男子トイレにおいて、同一人物によるものと思われる差別落書きが発見された。その内容は、特定の個人を名指して被差別部落出身者や同性愛者とし、差別、中傷するものである。また、消されて、判別しがたいが、民族差別に当たる表現も含まれていた。本学として、このような悪質な差別落書きを許すことはできない。この差別落書きの書き手は、一刻も早く自らの行為の犯罪性に気づき、自らの人格を自ら恥ずかせる行為を取り止めるべきである。本学は、この差別落書きの書き手の特定を初め、さまざまな差別問題の解消のため、今後も努力を重ねていく所存である。教職員や学生諸君にあっても、差別落書き等を見つけた場合は速やかに通報すると共にあらゆる差別をなくすために尽力されることを強く要請する。

平成十四年四月十二日

京 都 大 学

資料3

大学の動き

名誉博士称号贈呈式

3月29日(金)午前11時から総長室において、研究科長等関係者出席のもとに名誉博士称号贈呈式が挙行され、米国フロリダ大学教授ペン・クリシュラーマチャンドラン ナイヤー氏に、京都大学名

誉農学博士の称号が贈呈された。

同氏は、1971年にインドパンタナガル農業大学において農学博士(Ph.D.)の学位を取得し、その後数カ国において研究員等を歴任された。

また、贈呈式の当日、京大会館において、同氏の記念講演が行われた。演題は、「アグロフォレストリーと21世紀の熱帯の土地利用」である。

以下に同氏への贈呈の趣意を紹介する。

米国フロリダ大学森林資源・保全学部教授ブテンクリシュ ラーマチャンドラン ナイヤー氏は、ケニア国ナイロビの国際アグロフォレストリー研究所の設立に参画以来、また米国フロリダ大学に移籍後も、林業と農業・畜産業・水産業を組み合わせ、土地あたりの総生産力を増加させる持続的な土地利用システムであるアグロフォレストリーの基礎研究と応用・実践の結合の重要性を指摘され、いち早く取り組まれた。また、多年に亘りその基礎研究に優れた研究業績を挙げるとともに、その応用・実践を各地で指導され、アグロフォレストリーを体系化し、これら分野の研究の発展をリードしてきた。

同氏は、アグロフォレストリーを作物学及び土壌学の分野から研究を始められ、この手法を熱帯発展

途上国が抱える問題、すなわち人口増加に伴う食料生産、森林再生、地域生活環境改善に有効だと確信され、その事例研究と改良、さらには普及・実践を各地で指導された。その成果は10編の著書・編書 47編の分担執筆 62編の学術論文として公表され、各地で展開されるアグロフォレストリー研究・実践の大きな指針となり、国際的にも高く評価されている。この功績により米国農業学会国際農学賞、米国土壌科学学会国際土壌科学賞などが授与された。

同氏は、2000年9月から12月まで、本学外国人研究員（客員）として滞在し、この間、大学院農学研究科の教育・研究に携わるとともに、本学のアグロフォレストリー研究、熱帯農業研究の発展に大きく貢献した。とくに、積極的に論文作成指導を行い、学生に大きな刺激を与えた。また、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科での地域研究・地域生態研究についての学術講演会などを行うなど、本学の研究者や学生に大きな影響を与え、京都大学の研究教育に大きな功績を残した。

部局長の交替等

（新任）

薬学研究科長・薬学部長

橋田 充薬学研究科教授（医療薬科学専攻薬品動態医療薬学講座（薬剤学））が、中川照眞薬学研究科長・薬学部長の任期満了に伴う後任として、5月1日付けで任命された。任期は平成16年4月30日まで。



アジア・アフリカ地域研究研究科長

加藤 剛アジア・アフリカ地域研究研究科教授（東南アジア地域研究専攻地域進化論講座（比較社会学））が、田中二郎アジア・アフリカ地域研究研究科長の任期満了に伴う後任として、4月9日付けで任命された。任期は平成16年4月8日まで。



（再任）

再生医科学研究所長

山岡義生医学研究科教授（外科系専攻器官外科学講座（器官外科学））が、4月9日付けで再生医科学研究所長に再任されもした。任期は平成15年3月31日まで。

ウイルス研究所長

下遠野邦忠ウイルス研究所教授（がんウイルス研究部門（分子生物学））が、伊藤維昭ウイルス研究所長の任期満了に伴う後任として、4月16日付けで任命された。任期は平成16年4月15日まで。



部局の動き

大学院地球環境学堂・学舎の設置

21世紀の幕開けと共に、20世紀社会が解決できずに積み残した人類的課題が地球環境問題である。地球規模の問題から地域レベルの問題まで、課題の内容は複雑多岐に渡っている。地球環境問題は、科学の対象としての側面と、問題を解決すべき実践的側面を持ちあわせている。第一の側面からは、地球環境問題の複雑性と広がりから従来基礎科学の上に立って展望し、学問としての先見性と深淵性を持った新しい「地球環境学」を開拓しうる高度な研究者の養成が要請される。第二の側面からは、地球環境を持続可能な形態で改善維持経営する能力を有し、地球レベルと地域レベルの具体的問題を解決しうる高度な実務者が必要となる。

そこで、研究組織として学際領域の融合性及び流動性を確保するため「地球環境学堂」が、教育組織として総合的かつ高度な能力をもつ人材養成を持続

させるため「地球環境学舎」が、また、教育・研究支援組織として「三才学林」が、それぞれ4月1日設置された。

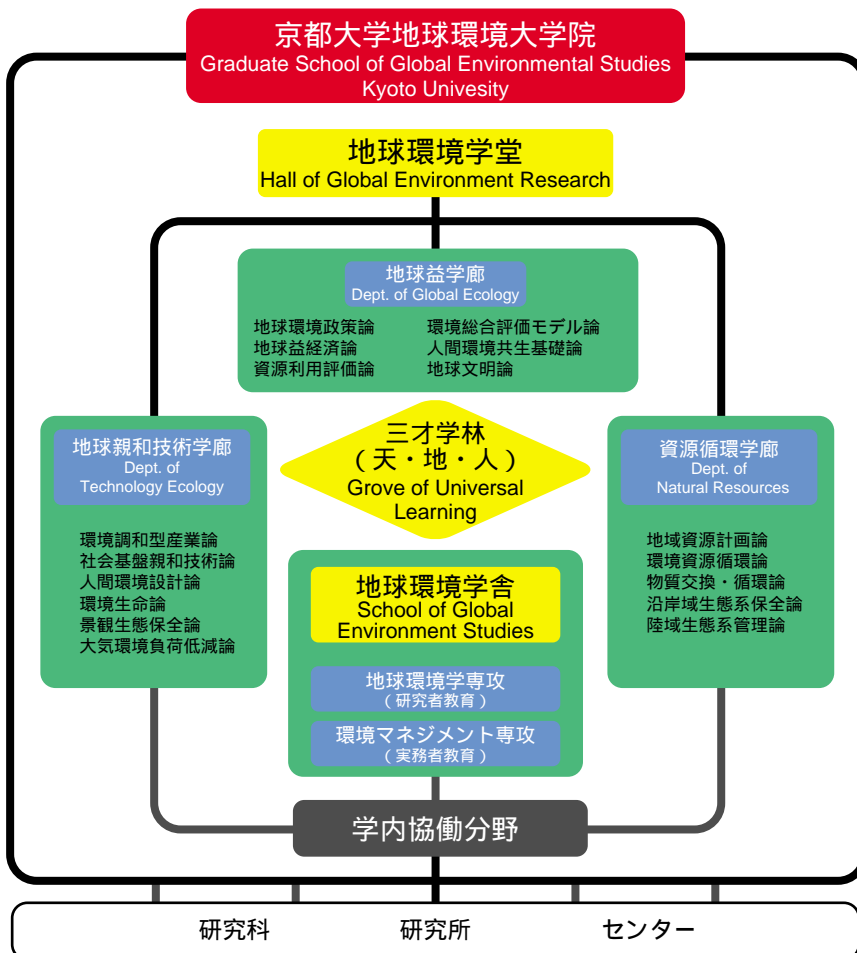
「地球環境学堂」では、地球文明理論の研究から最先端科学技術にわたる広範な分野に立脚する地球環境学を開拓するため、固有教官、流動教官、協働教官及び客員教官が結集し、「地球益」、「地球親和」、「資源循環」に従って、それぞれ、「地球益学廊」、「地球親和技術学廊」、「資源循環学廊」を構成している。

「地球環境学舎」では、新しい「地球環境学」を開拓しうる高度な研究者を養成する「地球環境学専攻」及び地球レベルと地域レベルの具体的問題を解決しうる実務者を養成する「環境マネジメント専攻」の2専攻で構成している。

「三才学林」では、国際セミナーや国際学術誌の編集を行うことにより、「地球環境学堂」と「地球環境学舎」を有機的に連携させる。

以上のように、大学院地球環境学堂・学舎では、研究組織、教育組織及び教育・研究支援組織を分立した独自の構成をもちながら、地球環境学の研究・教育に対する学内のほとんど全ての専門部局、さらにはNPO、国際機関など多様なセクターとの連携体制も指向している。また、既存の関連諸科学とは大いに異なる、融合型学問研究を実現させるための全学的なプロジェクトの遂行を可能とする仕組みを、検討しているところである。

(大学院地球環境学堂・学舎)



地球環境学舎入学式

4月19日(金)午前10時から、地球環境学舎の入学式が来賓出席のもとに、京大会館にて挙行された。

入学式は、学歌斉唱(京都大学合唱団協力)に続



いて、「総長のことば」として尾池和夫副学長から挨拶があり、午前10時20分に終了した。

今年度の入学者数は次のとおりである。

(大学院地球環境学堂・学舎)

専攻	修士課程入学者数			博士後期課程入学者数		
	入学者	外国人留学生	社会人	入学者	外国人留学生	社会人
地球環境学専攻	-	-	-	21	4	4
環境マネジメント専攻	39	4	4	-	-	-

(注)外国人留学生、社会人は入学者の内数

化学研究所に寄附研究部門を設置

化学研究所に寄附研究部門「プロテオームインフォマティクス(日本SGI)研究部門」が、4月1日に設置された。

概要は次のとおりである。

- 1 部局名 化学研究所
- 2 名称 プロテオームインフォマティクス(日本SGI)研究部門
- 3 寄附者 日本エス・ジー・アイ株式会社
代表取締役 和泉法夫
- 4 寄附金額 総額 120,000,000円(分割納付)
- 5 設置期間 平成14年4月～平成17年3月(3年間)
- 6 担当教員 助教授相当 馬見塚拓, 助手相当 山口敦子
- 7 研究目的

タンパク質の立体構造, タンパク質間相互作用, タンパク質と低分子の相互作用などに関する大量データから, 創薬をはじめとした産業化へつながる有用情報を見いだす情報処理技術の開発研究を行う。

- 8 研究内容

蓄積されつつあるプロテオーム情報を利用し, 結合分子/相互作用タンパク質を効率的に探索・発見するシステムの開発研究を行う。

- 9 研究課題

ゲノム情報とプロテオーム情報に基づき, 相互作用するタンパク質と低分子を効率的に探索・発見するシステムの開発研究。

随想

「行方不明」の楽しみ

名誉教授 川那部 浩哉

いつごろ始めたのだろうか、毎年1～2回の「行方不明」を。夏と冬とにそれぞれ1～2週間程度で、場所は決まっていない。どこにいるのかは誰も知らない。ただ私の方から、毎日電話連絡をして緊急のことがないかを聞き、それには返事をする。



似たようなことを始めた年は判っていて、手帳によればそれは1976年である。ただし、そのころはどこにいるかを公にしていた。研究室はおろか自宅にいても、いろいろな用事がつぎつぎにやってきて、時間がすべて細切れになる。すなわち、ある考えに没頭したりその結果を書くのに、連続した長い時間を費やすことが不可能になってきた。いらいらする。その、いわば「救済策」としてであった。だがそのうちに、旅先まで電話が来るようになる。掛ける人も一応の遠慮はしてくれるのだが、旅館の1室で何かに熱中しているときに何度もやられると、いらいらは解消しない。そこで、どこにいるかを隠密にしたわけで、「行方不明」と称する所以である。

「公式」に迷惑をかけたのは、85年から2年ほどであろうか。70年前後とは比べものにならないが、まだ「大学問題」は華やかだったころである。評議員というのは本来は、大学全体のお目付け役兼最終決定に参加する一員であって、学部の管理運営には関係がなくてもよい筈だが、時期が時期だけに学部長の相談に応じたり、ときには何かをまとめなければならぬ。「1週間あまり抜けるだけでも困るのに、どこにいるかも教えぬとは、そりゃきこえませぬ」ということだったが、学部長寺本 英さんの許しを得て、事務室にも了解してもらった。毎日当方から電話連絡をするのは、それ以来のことである。

ところで1～2週間いるには、安い宿であることが絶対条件だ。それに、温泉だとたいへん嬉しい。毎夕同じ料理を食べるのは嫌だから、いくつか食堂のあるところをしたい。昼に旨いコーヒーは飲めな

いものだろうか。かなりの本は持参するとしても、何かの折りにふらりと見に行くことのできる、ある程度の大きさの本屋さんがあると、これは大いに助かる。こうなると、場所はかなり限定されてくる。考えてみると、毎年おなじところへ行くわけではないものの、ひよっとすると見当ぐらいはつけられているのかもしれない。

連絡は、可能なかぎり公衆電話からする。最近は、どこからかけたかが判るような電話が増えていると聞くからだ。携帯電話は絶対に持たない。ただ昨年、ある方法を教えて貰った。イー＝メールなら、どこにいるかを知られずに受信・発信できるというわけである。なるほどと、これは受け入れることにした。

それはともかく、「行方不明中なら暇だろう」と、直前に仕事を持ち込まれることが増えてくる。90年あたりまでは、大学院生などの論文を見て直すことが主だったが、それ以後はさらにいっそう野暮な仕事も持ち込まれる。すなわち、「行方不明」を企てた甲斐がだんだん、ますますないことにもなってくる。

それでも、多くの関係者が書いて呉れた原稿を再編成して、『博物館を楽しむ』（岩波ジュニア新書）が作れたのは、この期間が利用できたからだ。「世界湖沼会議」の基調講演や総括講演の原稿作成や推敲、集まってきた800編あまりの講演要旨に目を通したのも、これなしには成り立たなかつただろう。

昼のコーヒー屋で、長編の小説や評論を読むのも楽しみ。次はどんな本を持って行こうかと、「行方不明」からの帰洛直後以来、それを考え始めている。

（かわなべ ひろや 滋賀県立琵琶湖博物館長，元理学部・生態学研究センター教授，平成8年退官，専門は群集生態学・生物文化多様性論）

洛書

気になる予期せぬ樹・木管理

島田 幹夫

「洛書」への投稿依頼がきて、面食らってしまったが、身近な出来事を少し紹介させていただく。「木質科学研究所」は平成3年の改組以前、「木材研究所」であった。当時、研究会などで司会者が間違っ
て「材木」研究所の「先生」と呼んだために気を悪くし、「木材研究所です！」と憤慨する愛所精神豊かな先生もおられたようである。確かに「木材」と「材木」は似ているが違いはあるのである。しかしどちらにせよ、ハイテクノロジーから生まれた高級品とかいうイメージではないかも知れない。「犬も歩けば棒にあたる」。これはちょっと意味合いは異なるのだが、「材木」とか「木材」という語がもたらすイメージは、どうも野良犬に当たってもおかしくない余りにもありふれた棒切れという一種の偏見を人の心に植え付けてしまった感がある。しかし、現実には「木使いの文化」を大いに支えているのである。田舎の我が家の近くで建設中の木造家屋は、ヒノキ材をめぐらし、樹齢200年を誇るケヤキ材を大黒柱に使っている。床柱には「杜松」の天然絞り、床板には花梨の椋材などなど、文字どおり「適材適所」のコンセプトを実現したこのような木造家屋は、今では高級品、いや贅沢品ですらある。このような贅沢品の話はともかく、森林資源の育成、木造家屋の保存と保護にかかわる研究に従事できることは、実に素晴らしいことであると自負している。しかしながら、地球上の木質資源が枯渇してしまえば、この研究分野もおしまいどころか、それはもはや文明の危機だと言わねばならない。否、その前に「き遣いの文化」が崩壊するであろう。そこで、治水涵養はもちろん地球の二酸化炭素濃度の減少にも貢献する植林が、重大な関心事となっていることはここで申すまでもない。

実は、ここで紹介したい話というのは、植林をしても枝打ちなどの植栽管理ができていないと、病虫害を受けやすく、ただのデクの棒を生産しているに過ぎないということである。以前、我が家の周辺に植林されていたスギの木が台風によって倒され、隣家に被害をもたらしたことがあった。その杉木立の所有者はいわゆる町の「有力者」であり、隣人が再びそのようなことがあっては安心できない旨、伐採をお願いしたのであるが、なかなか色よい返事をも

らえなかったのである。しかし、まかり間違えばわが家も被害をこうむる危険にさらされているわけで、植林には敬意を表しつつも、ここは何とかこちらの専門知識（木材腐朽菌の生理学など）を生かして伐採を了解してもらわなければならない、と説得に掛け合うことになった。

病虫害をうけた樹木は強風に倒されやすいので、まず道路際のスギの木を調べてみると、樹の幹には明らかに虫害の痕が観察され、その内側は木材腐朽菌に侵されている可能性が高いものも見つかった。それに、もともとスギ・ヒノキは根の張り方が浅く、特に人工林は天然林にくらべ強風に弱いと言われている。実際、奈良春日山台風7号被害の報道（毎日新聞）によれば、スギ・ヒノキの人工林は約30万本当たり約43,000本の倒木数を記録したのに対して、天然林は60万本当たりわずか23本という調査結果が出ている。また法律論からすれば、倒木により家屋の損壊が生じた場合の責任について、民法第717条2項で「竹木の栽植または支持に瑕疵があった場合に、その占有者（所有者）は損害賠償の責を負う」と定められている。その判例も調べることができた。以上の情報と資料をもとに、山林所有者に説明したところ、円満に伐採を了解して頂くことができた。その上、別の山林所有者が、向こう3軒両隣の前に生えているスギの木10数本を何も言わなかったのに、伐採するというおまけまでついた。そんな訳で「木勉」を弄することもなく、隣家の人々には日当たりもよくなったと感謝され、悦にいった次第である。

今、戦後時に植林されたスギの花粉が猛威をふるっている。先日のNHKテレビの報道によれば日本人の1,300万人が花粉症に苦しんでいるとか。花粉症は今や深刻な国民病と言われている。やはり、これらのスギを公益観点から伐採して利用することは、ひとつの緊急事項であろう。

樹木は地球上では最大にして最長の寿命を誇る生物体。日本人の平均寿命も最長記録を更新中。それなのに家屋の平均耐用年数が、その価格に比べ25年では余りにも短い。樹木も家屋もそれぞれ植えっぱなし、建てっぱなしでは木質資源の危機を招くものであり、共に維持・管理することの大切さを痛感する。そんなこんなで、「エコロジー」と「エコノミー」との調和、人間と自然との共生がやはり今世紀最大の課題だと思うこの頃である。

（しまだ みきお 木質科学研究所教授）

資料

平成 14 年度入学試験諸統計

1. 募集人員・志願者数・合格者数・入学者数等調

学部・日程		募集人員	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入 学 辞退者数	追 加 合格者数	入学者数
総合人間 学 部	前期(文系)	55 [^]	180 [^]	174 [^]	172 [^]	56 [^]			134
	前期(理系)	55	221	213	212	56			
	後 期	20	371	320	178	22			
文 学 部	前 期	190	582	582	574	193			224
	後 期	30	417	303	142	31			
教育学部	前 期	40	156	150	150	43			63
	後 期	20	171	148	94	20			
法 学 部	前 期	320	835	832	821	323	1		362
	後 期	20	437	363	126	40			
経済学部	前期(一般)	160	623	623	608	160	3		239
	前期(論文)	50	320	258	252	52			
	後 期	20	726	578	389	30			
理 学 部	前 期	271	956	929	921	271			301
	後 期	30	1,208	1,184	795	30			
医 学 部	前 期	90	467	409	401	94			106
	後 期	10	230	152	76	12			
薬 学 部	前 期	70	276	276	268	75			85
	後 期	10	195	195	126	10			
工 学 部	前 期	857	2,476	2,474	2,454	859	1		957
	後 期	98	952	787	417	99			
農 学 部	前 期	233	753	752	742	242	4	1	310
	後 期	67	954	926	612	71			
小 計	前 期	2,391	7,845	7,672	7,575	2,424			
	後 期	325	5,661	4,956	2,955	365			
合 計		2,716	13,506	12,628	10,530	2,789	9	1	2,781

〔外国学校出身者のための選考の実施結果(外数)〕

学 部	募集人員	志願者数	第1次選考合格者数	受験者数	合格者数	入学者数
法 学 部	20名以内	37 [^]	18 [^]	9 [^]	2 [^]	2 [^]
経済学部	10名以内	23	10	5	4	4

工学部・農学部学科別内訳

学部・日程		募集人員	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入 学 辞退者数	追 加 合格者数	入学者数
工 学 部	前期	857 [^]	2,476 [^]	2,474 [^]	2,454 [^]	859 [^]	1 [^]		957 [^]
	後期	98	952	787	417	99			
地球工学科	前期	166	458	457		166			185
	後期	19	283	228		19			
建 築 学 科	前期	72	281	280		72	1		80
	後期	8	84	65		9			
物理工学科	前期	211	671	671		211			235
	後期	24	224	192		24			
電気電子工学科	前期	117	263	263		117			130
	後期	13	95	78		13			
情 報 学 科	前期	81	231	231		81			90
	後期	9	86	72		9			
工業化学科	前期	210	572	572		212			237
	後期	25	180	152		25			
農 学 部	前期	233	753	752	742	242	4	1	310
	後期	67	954	926	612	71			
資源生物科学科	前期	75				78	1		97
	後期	19	197	197		20			
応用生命科学科	前期	38				40	1	1	49
	後期	9	148	148		9			
地域環境工学科	前期	26				27			38
	後期	11	161	161		11			
食料・環境経済学科	前期	23				25	1		33
	後期	9	182	182		9			
森林科学科	前期	45				45	1		58
	後期	12	189	189		14			
食品生物科学科	前期	26				27			35
	後期	7	77	49		8			

(備考) 1) 法学部・経済学部の外国学校出身者のための選考を除く。
2) 総点については、前期・後期共合格発表時のものである。

2. 合格者 最高点・最低点・平均点(総点) 調

学 部	日 程	満 点	総 点				
			最 高 点	最 低 点	平 均 点		
総 合 人 間 学 部	前 期	(文系)	800	610.00	452.00	488.26	
		(理系)	800	548.00	389.00	432.19	
	後 期		800	515.00	450.99	468.63	
文 学 部	前 期	700	551.50	404.75	439.60		
	後 期	700	515.00	444.25	462.03		
教 育 学 部	前 期	900	643.41	511.91	557.34		
	後 期	900	601.74	520.49	550.74		
法 学 部	前 期	750	584.75	429.75	467.43		
	後 期	500	407.75	364.25	377.64		
経 済 学 部	前 期	(一般)	800	604.25	476.00	507.62	
		(論文)	1,000	724.58	443.25	511.89	
理 学 部	後 期	950	527.90	461.35	485.33		
	前 期	650	537.00	328.00	372.66		
理 学 部	後 期	400	276.00	225.00	241.63		
	前 期	1,250	998.00	815.50	871.61		
医 学 部	後 期	1,400	1,064.80	994.10	1,019.89		
	前 期	950	685.16	527.08	569.73		
薬 学 部	後 期	950	662.25	576.25	608.89		
	前 期	1,000	796.16	513.50	589.60		
工 学 部	前 期						
	後 期						
工学部学科別	前 期	地球工学科	1,000	732.00	532.16	586.65	
		建築学科	1,000	713.58	538.58	591.94	
		物理工学科	1,000	796.16	571.75	620.00	
		電気電子工学科	1,000	715.33	525.08	579.19	
		情報学科	1,000	783.83	543.58	601.31	
		工業化学科	1,000	725.75	513.50	562.12	
		地球工学科	1,100	776.00	690.50	728.42	
	後 期	建築学科	(A選抜)	500	278.00	219.50	246.88
			(B選抜)	650	387.50	304.50	336.30
	後 期	物理工学科	1,100	824.50	690.50	734.97	
		電気電子工学科	1,000	911.06	550.31	664.93	
		情報学科	300	237.00	191.00	203.44	
		工業化学科	1,000	649.00	530.00	566.84	
		農 学 部	前 期	1,050	765.00	575.16	623.17
農学部後期学科別	後 期	資源生物科学科	810	574.70	455.60	486.66	
		応用生命科学科	810	571.16	498.73	523.55	
		地域環境工学科	900	606.50	497.00	536.41	
		食料・環境経済学科	800	544.99	498.33	515.92	
		森林科学科	810	509.90	434.06	453.66	
		食品生物科学科	290	248.90	235.55	240.97	

3. 志願者・入学者 出身高校等所在都道府県別調

上段...志願者数
下段...入学者数

都道府県	学 部										計	
	総合人間	文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農		
北海道	20	19	11	13	25	60	11	7	33	19	218	
東 北	青 森	1	6		5	1	13		2	6	39	
	岩 手	2			3	3	15				23	
	宮 城	15	13	3	16	8	8	3	3	10	91	
	秋 田	2	2		2	1	6			4	21	
	山 形	4	5		2	5	6	1	1	3	28	
	福 島	1	1	3	8	7	14	6		11	4	55
	茨 城	6	15	3	9	11	28	6	5	29	11	123
東 関	栃 木	6	12	1	5	8	12	5	2	4	7	62
	群 馬	11	8	2	5	11	15	2	4	19	11	88
	埼 玉	14	14	7	8	24	44	5	9	21	22	168
	千 葉	21	20	12	13	40	77	9	6	49	27	274
	東 京	84	76	34	64	159	231	55	31	121	114	969
	神奈川	24	21	17	23	46	85	23	8	54	48	349
	新 潟	9	3	2		10	20	6	3	12	13	78
	富 山	4	7	3	4	6	18	2	9	17	13	83
	石 川	2	17	5	13	12	21	4	5	33	10	122
	福 井	7	12	6	16	15	13	5	3	22	13	112
中 部	山 梨	4	4	2		7	8	1		6	2	34
	長 野	5	11	2	10	12	20	7	3	31	22	123
	岐 阜	11	7	1	13	26	36	5	8	38	17	162
	静 岡	21	20	4	14	20	48	13	10	75	30	255
	愛 知	47	48	22	84	80	149	37	35	192	111	805
	徳 島	1	7		10	7	6	3	2	16	10	62
	香 川	10	12	4	25	21	18	3	4	53	9	159
四 国	愛 媛	5	6	7	10	11	25	7	4	39	13	127
	高 知	3	9	3	13	9	21	6	7	26	20	117
	福 岡	35	43	19	34	23	74	17	16	121	42	424
	佐 賀	5	5	3	7	2	15	7		20	3	67
	長 崎	5	4	1	13	10	9	3	3	18	4	70
	熊 本	11	11	10	6	12	23		4	24	10	111
	大 分	5	6		3	6	7	2	1	10	5	45
	宮 崎	1	2	2	4	5	15	2	1	8	1	41
	鹿 児 島	11	13		14	22	33	11	3	24	22	153
	沖 縄	2	1	1	1		14	2		8	1	30
検 定	11	18		9	35	26	9	4	18	23	153	
そ の 他			1						1		2	
合 計	722	999	327	1,272	1,669	2,164	697	471	3,428	1,707	13,506	
	134	224	63	362	239	301	106	85	957	310	2,781	

都道府県	学 部										計	
	総合人間	文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農		
近 畿	三 重	14	12	1	22	26	43	9	12	43	33	215
	滋 賀	12	13	6	25	33	28	8	13	92	39	269
	京 都	56	110	22	153	209	153	75	41	438	195	1,452
	大 阪	121	156	49	247	285	280	111	109	676	352	2,386
	兵 庫	67	81	27	155	186	183	128	40	424	181	1,472
	奈 良	24	55	4	96	140	87	43	25	367	130	971
	和歌山	13	21	8	26	21	29	12	8	60	32	230
	鳥 取	4	6		5	2	8	6	1	9	6	47
	島 根	1	3		6	1	8	3	2	6	4	34
	岡 山	10	31	7	13	16	41	9		50	17	194
中 国	広 島	20	23	8	35	35	53	10	12	56	24	276
	山 口	4	10	4	10	15	18	5	5	31	15	117
	徳 島	1	7		10	7	6	3	2	16	10	62
	香 川	10	12	4	25	21	18	3	4	53	9	159
四 国	愛 媛	5	6	7	10	11	25	7	4	39	13	127
	高 知	3	9	3	13	9	21	6	7	26	20	117
	福 岡	35	43	19	34	23	74	17	16	121	42	424
九 州	佐 賀	5	5	3	7	2	15	7		20	3	67
	長 崎	5	4	1	13	10	9	3	3	18	4	70
	熊 本	11	11	10	6	12	23		4	24	10	111
	大 分	5	6		3	6	7	2	1	10	5	45
	宮 崎	1	2	2	4	5	15	2	1	8	1	41
	鹿 児 島	11	13		14	22	33	11	3	24	22	153
	沖 縄	2	1	1	1		14	2		8	1	30
検 定	11	18		9	35	26	9	4	18	23	153	
そ の 他			1						1		2	
合 計	722	999	327	1,272	1,669	2,164	697	471	3,428	1,707	13,506	
	134	224	63	362	239	301	106	85	957	310	2,781	

(備考) 外国学校出身者のための選考を除く。

4. 志願者・入学者 入学資格取得年別調

学 部	志 願 者						入 学 者					
	総数	現 役	浪 人				総数	現 役	浪 人			
		14.3卒	13.3卒	12.3卒	11.3卒	10.3以前卒		14.3卒	13.3卒	12.3卒	11.3卒	10.3以前卒
総合人間学 学部	人 772 検 11	人 472 検 1	人 214 検 6	人 34 検 1	人 24 検 3	人 28	人 134 検 2	人 72 検 2	人 53 検 2	人 3 検 2	人 3 検 2	人 3 検 2
		61.1%	38.9%					53.7%	46.3%			
文学部	999 検 18 専 2	650 検 5	266 検 5	51 専 6	8 検 2	24	224 検 1	128 検 1	85	5	2	4
		65.1%	34.9%					57.1%	42.9%			
教育学部	327 他 1	195 他 1	104	21		7	63	36	21	5		1
		59.6%	40.4%					57.1%	42.9%			
法学部	1,272 検 9	837 検 1	343 検 1	43 検 2	6 検 6	43	362 検 3	216 検 1	123 検 1	13 検 1	1 検 1	9 検 1
		65.8%	34.2%					59.7%	40.3%			
経済学部	1,669 検 35 専 2	905 検 13	542 検 11 専 2	112 検 4	51 検 2	59 検 5	239 検 3	128 検 2	98 検 1	7 検 1	5	1
		54.2%	45.8%					53.6%	46.4%			
理学部	2,164 検 26 専 3	1,221 検 7 専 1	573 検 3 専 2	177 検 2	32 検 2	161 検 12	301 検 3	178 検 1	98 検 1	18	5 検 1	2
		56.4%	43.6%					59.1%	40.9%			
医学部	697 検 9	273 検 2	139 検 2	52 検 2	17 検 5	216	106	51	32	7	1	15
		39.2%	60.8%					48.1%	51.9%			
薬学部	471 検 4	263 検 2	117 検 1	35 検 1	12	44	85	50	28	6		1
		55.8%	44.2%					58.8%	41.2%			
工学部	3,428 検 18 専 2 他 1	2,239 検 8 他 1	929 検 4	157 専 1 専 2	41 検 1	62 検 4	957 検 2	590	327 検 1	34	4 検 1	2
		65.3%	34.7%					61.7%	38.3%			
農学部	1,707 検 23	896 検 5	537 検 6	139 検 2	44 検 5	91 検 5	310 検 1	131 検 1	154	20	3	2
		52.5%	47.5%					42.3%	57.7%			
合 計	13,506 検 153 専 9 他 2	7,951 検 41 専 1 他 2	3,764 検 39 専 4	821 検 21 専 4	235 検 15	735 検 37	2,781 検 15	1,580 検 2	1,019 検 8	118 検 2	24 検 2	40 検 1
		58.9%	41.1%					56.8%	43.2%			

〔外国学校出身者のための選考に係る入学資格取得年別調（外数）〕

学 部	志 願 者			入 学 者		
	総 数	現 役	浪 人	総 数	現 役	浪 人
		13.4~14.3卒	13.3以前卒		13.4~14.3卒	13.3以前卒
法学部	人 37 他 37	人 35 他 35	人 2 他 2	人 2 他 2	人 2 他 2	人 2 他 2
		94.6%	5.4%	100.0%		
経済学部	23 他 23	22 他 22	1 他 1	4 他 4	3 他 3	1 他 1
		95.7%	4.3%	75.0% 25.0%		

検...大学入学資格検定合格者
 専...高等専門学校出身者
 他...その他の入学資格取得者

平成 13 年度教育実習実施状況について

教育実習は教育職員免許法により、3単位の修得が義務づけられている。本学では事前指導として、実習参加学生に対して例年4月下旬にオリエンテーションを2日間行い（教育実習一般、民族教育、障害者教育、同和・人権教育）、更に各教科別に具体的な事前指導を行って教育実習に臨ませている。本学では附属学校を有していないため、教育実習は原則として学生の出身校（高等学校、中学校の何れも可）の協力を得て行っている。ただし、事情があって出身校で承諾を得られない場合には京都市立学校（高等学校、中学校、養護学校）に依頼して実施している。

教育実習は府県により開始時期は異なるが、夏季休業期間を除いて5月上旬から11月中旬までの間に2週間が充てられ、全体の実習が終了した後、11月下旬頃に各教科別の事後指導が行われる。

単位認定は、教育実習校からの「教育実習成績報告票」、実習生が提出する「教育実習ノート」と事前及び事後指導の評価を勘案して教育学部において行っている。

平成13年度においては、全国39都道府県の国公私立高等学校121校、中学校6校、養護学校2校の協力を得て実施した。

なお、本年度の特徴として、

- 1) 平成12年度入学者から適用の新教育職員免許法適用の教育実習適用者（科目等履修生、大学院生）があった。

- 2) 例年に比較して教育実習参加者が農学部をはじめ、多くの学部で減少したことがある。これは中学校免許状取得には、教育実習に加えて7日間の体験が必要となったことの影響であるとも考えられるが詳細は不明である。

- 3) 「介護等体験」制度（中学校普通免許状の取得希望者に、盲・聾・養護学校で2日間、保育所を除く社会福祉施設等で5日間、計7日間の体験を行うことが義務づけられた制度で、京都大学では2回生から実施可能。）の希望者増大がある。

特に介護等体験制度適用初年度（平成10年度後期）に2名の希望者が、平成11年度では21名、平成12年度では61名、平成13年度では49名（前期：28名、後期：21名）となった。学生1名について2つの窓口（特殊教育諸学校と社会福祉施設等）が必要であり、原則として学生の出身府県での実施を原則としているため、折衝すべき窓口は大幅に拡大した。そればかりでなく、体験に参加する学生数が増加するに連れて種々の問題点も指摘され、制度運用に困難を来している。

また、本学の現状では教員免許状取得希望者（とりわけ中学校免許状取得希望学生）把握が困難であるため、教育実習及び介護等体験を円滑に運営するには、各学部・研究科の協力がこれまで以上に重要となってくると考えられる。

関係各位のご理解と一層のご協力をいただき、制度運営にあたりたい。
（教職教育委員会）

1. 学部、研究科別実習実施校（京都市立校及び出身校）

区 分	学部・研究科名													計
	総人	文	教	法	経	理	薬	工	農	人・環	エネルギー	情報	生命	
参加申込者	2 11	(7) 43	4 33	2	4	(6) 36	1	(5)1 20	(6) 21	(3) 3		(3) 3		(30)7 168
京都市立中学・高校		(1) 3	3			2		(1) 1	2					(2) 8
京都市立養護学校			2											2
上記区分終了者		(1) 3	7			2		(1) 1	2					(2) 10
出身中学・高校等	2 11	(6) 40	4 22	2	4	(6) 34	1	(4)1 19	(6) 19	(3) 3		(3) 3		(28)7 158
取りやめた者	2	(1) 1	2			(1) 1		(1) 1	(1) 1					(4) 8
上記区分終了者	2 9	(5) 39	4 20	2	4	(5) 33	1	(3)1 18	(5) 18	(3) 3		(3) 3		(24)7 150
実習終了者	2 9	(6) 42	4 22	2	4	(6) 35	1	(4)1 19	(5) 20	(3) 3		(3) 3		(26)7 160

（注）枠内の（ ）は大学院生， は科目等履修生で何れも内数。

2. 校種別実施状況

区分	学部・研究科名														計
	総人	文	教	法	経	理	薬	工	農	人・環	エネルギー	情報	生命		
中学校	2 2		1					(1) 2						(1)2 7	
高等学校	7	(6) 42	4 19	2	4	(5) 35	1	(3)1 17	(5) 18	(3) 3		(3) 3		(25)5 151	
養護学校			2											2	
合計	2 9	(6) 42	4 22	2	4	(5) 35	1	(4)1 19	(5) 20	(3) 3		(3) 3		(26)7 160	

(注) 枠内の()は大学院生, ()は科目等履修生で何れも内数。
 本年度の教育実習は、全国39都道府県の国公私立高等学校121校、中学校6校、養護学校2校の協力を得て、実施した。

訃報

このたび、^{とまな たかし} 苫名 孝名誉教授、^{きたむらしろう} 北村四郎名誉教授が逝去されました。
 ここに、謹んで哀悼の意を表します。
 以下に両名誉教授の略歴、業績等を紹介いたします。

苫名 孝 名誉教授



苫名 孝先生は3月12日逝去された。享年79。

先生は、昭和25年京都大学農学部農学科を卒業、同大学農学部助手、島根農科大学助手、山形大学農学部講師、助教、教授を経て、同48年京都大学農学部教授に就任し、果樹園芸学講座を担当された。昭和61年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、昭和54年から同56年まで農学部長として大学の管理運営に貢献された。また、文部省農学視学委員、文部省大学設置審議会専門委員、日本学術会議会員などを歴任された。

本学退官後は、昭和61年から近畿大学教授を務められ、平成5年から同9年まで同大学生物理工学部

長、同7年から同11年まで同大学附属農場長を務められた。

先生は果樹園芸学、中でも果実生理学の研究において優れた研究業績を残され、果実発育・成熟に及ぼす果実温度の影響、甘ガキの脱渋機構の解明などに取り組みました。さらに果樹台木の環境適応性の研究も手がけられ、果樹産業の発展にも貢献された。主な著書に『果実の生理』、『果樹生産ハンドブック』、『青果保蔵汎論』、『園芸ハンドブック』等がある。

また、園芸学会において副会長・会長、学会雑誌編集委員長、評議員などの要職を歴任され、さらに、国際園芸学会日本委員として国際学術交流にも貢献された。これら一連の研究教育活動、学会活動により、平成11年5月勲三等旭日中綬章を受けられた。

(大学院農学研究科)

北村 四郎 名誉教授



北村四郎先生は、3月21日逝去された。享年95。

先生は、昭和6年京都大学理学部を卒業し、引き続き同大学院で植物分類学を学ばれ、昭和18年理学部植物学教室助教、同20年教授となり、植物学第三講座を担当された。昭和45年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。こ

の間キク科の分類学研究を行い、良く知られた園芸品ミヤコワスレの原種であるミヤマヨメナ(属名 Miyamayomena)を始め、多数の新属や新種を発表された。その一方、我が国のヒマラヤの植物研究の草分けとして活躍し、アフガニスタン植物誌なども研究された。戦前戦後を通して採集された多数の植物標本と貴重な植物分類学関連の書物を京都大学に寄贈され、後進研究者へ多大な便を与えている。

先生が執筆された「原色日本植物図鑑」は、戦後

の爆発的な植物愛好ブームを呼び、後年は日中合同の「原色中国本草図鑑」出版に尽くすなど植物学の啓発に力を注がれ、また、約30年間にわたり、生物学者でもあった昭和天皇の植物学の研究を助け、植物観察に度々同伴された。

さらに、京都府や滋賀県の文化財専門委員を努め、

京都市深泥池植物の学術調査などを行い、自然保護活動にも大きな足跡を残された。

これら一連の功績により、昭和52年4月勲三等旭日中綬章、同62年京都府文化賞を受けられた。

(大学院理学研究科)

日誌 2002.3.1 ~ 3.31

- | | | | |
|------|--------------------------|-----|---------------------------|
| 3月1日 | 同和・人権問題委員会 | 19日 | 教育課程委員会 |
| 5日 | 評議会 | " | アメリカ合衆国 Lary N.VANDERHOEF |
| " | 大学院審議会 | | カリフォルニア大学デービス校学長他4 |
| 6日 | 原子力研究整備委員会 | | 名来学、総長他と懇談 |
| 8日 | 人権問題対策委員会 | 20日 | 国際交流委員会 |
| 11日 | 学生部委員会 | " | 国際交流会館委員会 |
| 13日 | 入学者選抜学力試験(後期日程)(14日 | 25日 | 修士学位授与式 |
| | まで) | " | 博士学位授与式 |
| " | カナダ Alan BERNSTEIN 国立健康研 | 26日 | 卒業式 |
| | 究所(CIHR)長官他1名来学、総長他と懇 | 28日 | 中華人民共和国 WANG Dazhong 清華 |
| | 談 | | 大学長他1名来学、総長他と懇談 |
| 18日 | 医療技術短期大学部卒業式 | 29日 | 名誉農学博士称号贈呈式 |
| " | 教職教育委員会 | " | Bernard BELLOC フランス大学学長会 |
| " | 動物実験委員会 | | 議第一副議長(ツールーズ第一大学長) |
| 19日 | 評議会 | | 他2名来学、総長他と懇談 |
| " | 新キャンパス・建築合同委員会 | | |

お知らせ

文学研究科フォーラム

「京都から世界へ - 知の次なる一歩」

1. 日 時：6月15日(土)13:00~17:00
2. 会 場：京都都会館第2ホール(京都市左京区岡崎最勝寺町13)
3. プログラム：
 - 講演
 - ジョン・ローゼンフィールド(ハーバード大学名誉教授)
 - 「日本文化の転生 - 重源の事跡」(日本語)
 - シンポジウム
 - ジョン・ローゼンフィールド

ヴァレリー・ハンセン（イェール大学教授）

葛 兆光（清華大学教授）

中西 重忠（生命科学研究科教授）

佐々木丞平（文学研究科教授）

伊藤 邦武（文学研究科教授）

内井 惣七（a文学研究科教授）

4. 定 員：900人（申込先着順）

5. 参 加 費：無料（申込はファックス・E-mail・ハガキで）

6. 問い合わせ先：文学研究科フォーラム係

TEL 753-7985 FAX 753-2719

E-mail forum@bun.kyoto-u.ac.jp

詳細は文学研究科ホームページをご覧ください。

<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/>

平成 14 年度創立記念行事音楽会の開催

本学では、6月18日の創立記念日を祝し、下記日程のとおり音楽会を開催いたします。本学学生・教職員の来聴を歓迎します。

名 称 希^き生・ザイラー ヴァイオリンコンサート ～情熱的な吟遊詩人～

演 奏 者 希生・ザイラー（ヴァイオリン）
ヴァディム・サラブリアーニ（ピアノ）

日 時 6月14日（金） 開場：午後5時30分
開演：午後6時30分
終演：午後8時30分（予定）

会 場 京都コンサ - トホ - ル（京都市左京区下鴨半木町1 - 26）

プログラム

《第一部》（約40分）

ヘンデル : ソナタ ヘ長調 作品1の12
プロコフィエフ : 無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 二長調 作品115
ブラームス : ヴァイオリン・ソナタ 第3番 二短調 作品108
--- 休憩（20分間）---

《第二部》（約40分）

チャイコフスキー : メロディ 変ホ長調 作品42の3
クライスラー : 愛の悲しみ
プロコフィエフ : 行進曲
シューベルト : セレナード
エルガー : 愛のあいさつ
シューマン : トロイメライ（夢）
メンデルスゾーン : 5月のそよ風（無言歌集5巻 作品62より第1曲）
J.S. バッハ : アヴェ・マリア

演奏者略歴

希生・ザイラー（ヴァイオリン）

1975年、ピアノデュオとして世界で活躍のエルンスト&和子・ザイラー夫妻の間に京都に生まれる。3歳からヴァイオリンを始め、香西理子女史に師事。堀川高校音楽科（現京都市立音楽高校）で田淵洋子女史に師事。イーストマン音楽大学を経て、イエール大学のマスターコースを卒業。国際感覚と音楽的素質に恵まれ、ヴァイオリニストとしての研鑽を積み、将来が期待されている。

1991年から92年までユニチカの8代目マスコットガールに選ばれ、ウィーンやケニアなどのロケに訪れ、ポスターやカレンダーなどで一躍その可憐な容姿が有名になった。

1993年渡米。1994年から98年まで大同生命のCMにヴァイオリニストとして出演。1995年ニューヨーク州のイーストマン音楽大学に入学。アスペン音楽祭でドロシー・ディレイ女史に師事したのを機に、1996年シンシナティ音楽大学に移り、全額奨学生として女史のもとで研鑽を積む。同年は、札幌で開催された音楽祭「PMF」でコンサートマスターをつとめる。1995年から97年まで、アスペン音楽祭に参加。1999年10月、第1回スーパークラシックオーディション「ヴァイオリン部門」第2位受賞。

イエール大学にてアキ・ショウコ女史のもと、2000年5月マスターズ・ディグリーを取得して卒業し、6月に日本各地でデビューリサイタルを開いた。2001年1月にはチャータードサーウイヤーの室内楽コンクールで優勝。

現在、イギリスのギルドホール音楽院の奨学生として、デヴィット・タケノ氏について研鑽を積んでいる。リサイタル、室内楽コンサート、オーケストラ共演など欧米で活躍中。



ヴァディム・サラブリアーニ（ピアノ）

1975年ロシア・サンクトペテルブルクに生まれる。カナダのトロント音楽院にてマリナ・ゲリンガス女史に師事。カナダ国立放送、ロイヤル・トンプソンホール、グレンゲールド・ホールなどにて多くの演奏会に出演。後、アメリカに移り、ニューヨーク市とその近郊リンカーンセンター、アリストリ・ホールなど度々演奏会に出演。

ジュリアード音楽院にて、オクサーナ・ヤブロンスカヤ氏に師事し、バアチュラー及びマスター卒業。さらにイエール大学にてボリス・ヘルマン氏に師事、2000年6月ドクター卒業。

- 備考
1. 入場無料（入場の際は、本学学生証または職員証を呈示してください。）
 2. プログラムは当日会場で配布します。
 3. 定員は1,600名先着順とします。演奏中は入場できません。
 4. 問い合わせ先：学生部学生課課外教養担当 内線 2511

編集後記

アメリカの大学に勤める友人が、「テニューアが取れたよ」と連絡をくれた。私の専門とあまり関係のない彼が勤める小さな大学に特別興味を持つことはこれまでなかったが、送られてきた大学紹介の冊子を見て驚いた。良く工夫されていて実にわかりやすく、つい読んでしまった。ここ数年、日本の国立大学の広報誌も大きく様変わりし「つい読んでしまう」ものが増えている。京大は研究熱心ではあるけれど、広報活動にはずいぶんとおっとりしているといわれてきた。しかし、大学経営が現実の問題になり、情報公開、アカウントビリティなど広く社会の理解を得ることが求められている昨今、大学の広報誌は少なからざる意味を持つ。お気づきの向きも多いであろうが、この春から京大の広報誌には、この「京大広報」のほかに「紅^{くれなゐもゆる}崩」（国内向け）、「楽友（Raku-Yu）」（外国向け）の2種が新たに加わり、インターネットHPとともに外向けの情報発信基盤ができてきた。京大広報は、すでに三十数年の歴史を持ち、今後も学内向けの情報誌として受け継がれていくであろう。しかし、この冊子が、忙しい京大の皆さんの目にとまり「つい読んでしまう」ものに、さらに変わっても良い時期にきているかもしれないとふと思う。（師岡記）